

5. 排水による駆除



5.1. 人員体制（役割分担）

池干し駆除の当日は見学者なども多く集まる場合があるので、作業を行うメンバーを明確にし、**作業者の役割分担**を決めておきます。また、作業開始前には、その日の**作業内容**、**タイムスケジュール**、**安全確認事項**などの説明を行ってから作業に取りかかります。主な役割と内容は以下のとおりです。

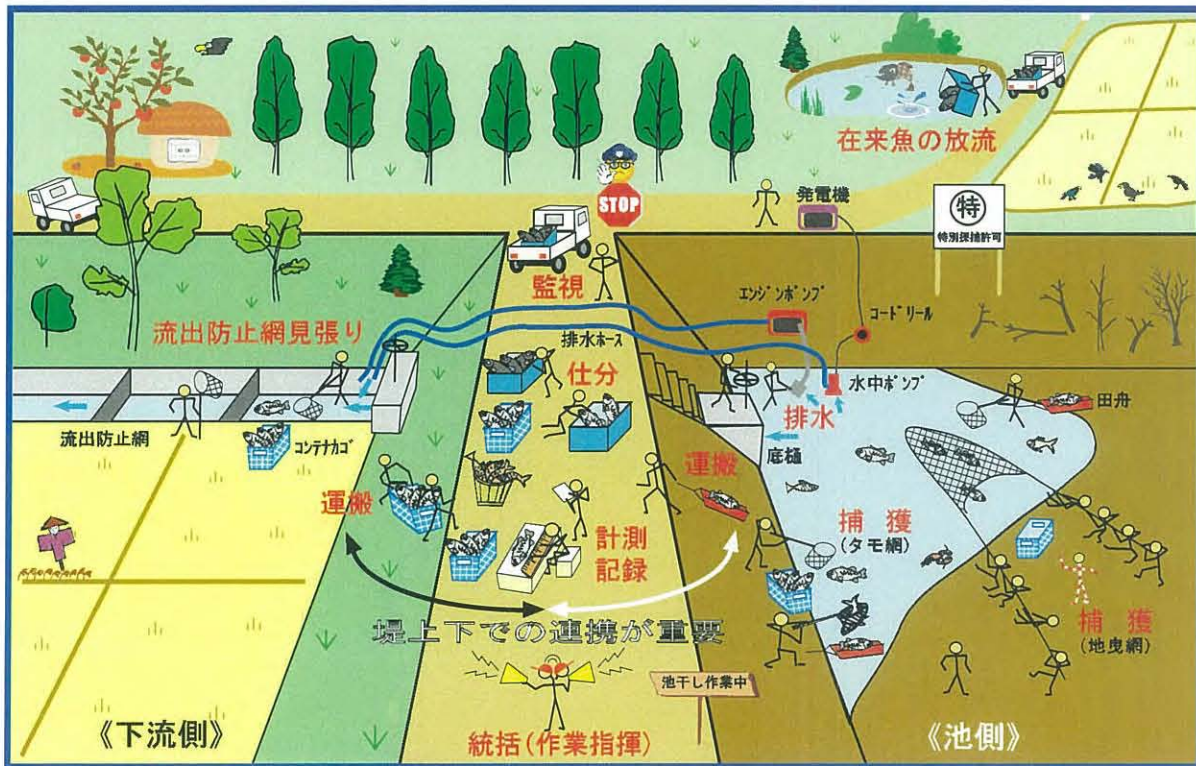


【作業分担と役割】



役割	内容
統括※	責任者として作業全般の指揮(個別の作業に付かず全体を見ておく)
捕獲	地曳網やタモ網などによる魚類の捕獲
運搬	捕獲した魚類の運搬
排水操作	底樋の開閉やポンプ排水作業
流出防止網	流出防止網のメンテナンスと魚の取り上げ
魚の仕分け	オオクチバス等と在来魚などの仕分け
計測記録	捕獲魚を計測する場合は体長・重量・尾数などを計測記録する
持ち出し監視※	オオクチバス等持ち出し監視
その他	買い出し、連絡員、人員整理、車輛整理など

※ は兼任せず、専任するようにします。



【人員配置の模式図】



統括（作業指揮）



捕獲（夕毛網）



捕獲（地曳網）



運搬



排水操作（底樋）



排水操作（ポンプ）



流出防止網見張り



魚の仕分け



計測記録



持ち出し監視

5.2. 魚類等の捕獲



○地曳網、タモ網による捕獲

地曳網やタモ網などで魚を捕獲します。地曳網を引くには人数が必要です。地域の児童などに参加してもらっても良いですが、水抜きをしたため池のまわりは滑りやすいので、**足下に注意**します。

50～60cmの水位で地曳網を1～2回引きます。地曳網が用意できない場合には**タモ網などで捕獲**します。大型のコイ、フナなどを捕獲する場合は、網目の大きいものを使用します。ブルーギルが生息している場合、稚魚は小さいので目の細かな網で捕獲します。

捕獲した魚はカゴなどに入れて運びます。



地曳網による捕獲



タモ網による捕獲



運搬

○魚類の仕分け

次に、オオクチバス等の外来魚とコイ、フナなどの在来魚に仕分けします。オオクチバス等は**特定外来生物**に指定されており、**生きたままでの持ち出しや飼育などが禁止**されています。仕分けの際には、水で泥を落とし間違えのないように**魚の判別が出来る人が行い、さらに外来魚が持ち出されないように監視**しておく人も必要です。



魚類の仕分け



オオクチバス・ブルーギルなどの外来魚



コイ・フナなどの在来魚

○持ち出し監視

オオクチバス等と混生する大型のコイやフナを捕獲して、釣り堀などに利用することは、池干しの動機付けになります。しかしその際、オオクチバス等を生きたまま意図的に、または意図せずに持ち出してしまわないように監視員を配置する必要があります。

監視員は他の様々な作業などに気をとられずに、**監視業務だけに専念**してください。コイやフナを放流用に生きたまま容器に集めるときに、**1尾たりとも外来魚**が混じらないように厳重に監視しなければなりません。コイやフナを生きたまま運ぼうとする人はとても急いでいるので、作業が雑になり、オオクチバス等の混入を見落とす可能性がありますので十分に監視します。



○捕獲魚の計測記録

捕獲した魚は、ため池の魚類の生息状況を把握するために、必要に応じて、種類、尾数、大きさ、重さなどを計測、記録します。

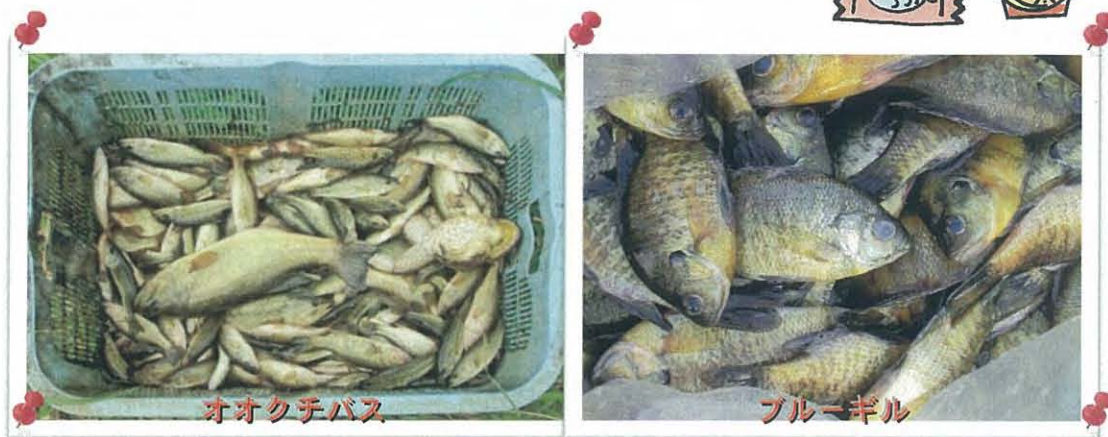


5.3. オオクチバス等の駆除後の処理

捕獲したオオクチバス等は、特定外来生物なので**生きたままの持ち出しや飼育が禁じられています**。捕獲魚は水から上げて完全に死んだことを確認した後持ち帰るなどして、適切な廃棄処理をします。水から上げた魚は棄てれば産業廃棄物になりますので、ため池周辺等に投棄しないようにします。

また、捕獲した魚類等の中には、アメリカザリガニ、カムルチー等の外来生物が含まれる場合もありますので、その際には適切に処分します。

なお、オオクチバス等は皮を除いて臭みを取り火を通せば、おいしく食べられます。(生では食べないで下さい)。



駆除されたオオクチバスとブルーギル

5. 4. 在来魚・希少種の保護

ため池によってはオオクチバス等の他にコイ、フナなどの**在来魚**や**希少種**なども生息しています。希少種の生息が確認されている場合には、前にも述べたとおり、池干し駆除（排水）を行う前に採集して水槽や**安全な場所に避難**させておきます。池干し当日には残存個体を補完的に捕獲します。

コイやフナなど大型の在来魚は多数捕獲されることもあるので、あらかじめ近隣のため池など**移送先と運搬手段**を決めておきます。

再放流する場合は定着しないこともあるので、一部を引き続き飼育して下さい。また、在来魚の復元については、専門家とよく相談して行います。



コイ・フナ類



運搬



放流

5. 5. 排水による駆除

おおむね魚を捕り終えたら滞筋（みおすじ）をつけて、ほぼ完全に排水を行います。

排水とともに残っている魚も流れるので、網で待ち受けるか、排水路の流出防止網で捕獲します。また、排水時には水とともに多量の泥も一緒に流れ、流出防止網が**目詰まりして破損しやすい**状態となりますので、必ず何名かは魚の回収と併せて配置についておかなければなりません。

底樋で完全に排水が出来ない場合には、翌年以降も池干し駆除を行うことで駆除効果を上げるようにします。



底樋を開けて完全に排水



泥水が流入する流出防止網



流出防止網で捕らえたブルーギル稚魚



滞筋（みおすじ）

排水が完了したため池



全長2~3cm



5.6. オオクチバス等残存箇所の処置

規模の大きなため池などでは、排水を行っても小さな水たまりや植物群落内の湿地などにオオクチバス等の稚魚などが残存している場合があります。せっかく池干し駆除をしても、このような状態で水を貯めてしまうと生存個体が成長してまた繁殖することとなりますので、一尾たりとも見逃さずに駆除して下さい。

残存箇所の駆除方法としては、水抜き、干し上げ、埋設があります。また、湿地帯などがある場合は、残存の可能性がありますので、水路を掘削するなどして、排水・乾燥させてください。

なお、ブルーギルの稚魚は小さく、水たまりなどに残存し易いので、十分に注意します。



📌 これらの稚魚を見逃さないようにしましょう!!

【残存箇所の実例】